

アメリカにおける図書館
サポートスタッフの養成

山 本 貴 子
大 城 善 盛
瀬戸口 誠
漢 那 憲 治

1. はじめに	111
2. 21世紀以前の図書館サポートスタッフ養成	112
2.1 ALA と図書館サポートスタッフ養成	112
2.2 図書館サポートスタッフ養成機関	114
2.2.1 1984年の図書館サポートスタッフ 養成機関	115
2.2.2 1999年の図書館サポートスタッフ 養成機関	117
3. 21世紀以降の図書館サポートスタッフ養成	120
3.1 ALA と図書館サポートスタッフ養成	120
3.1.1 「図書館情報学と人的資源利用政策」	120
3.1.2 「図書館技術助手養成プログラム規準」	121
3.1.3 「図書館サポートスタッフ 資格証プログラム」	126
3.2 図書館サポートスタッフ養成機関	132
3.2.1 2005年の図書館技術助手養成機関	132
3.2.2 事例研究	136
4. 結び	144

1 はじめに

アメリカ合衆国(以下, アメリカ)の図書館及び図書館職員の事情を知る際に, 国立国会図書館の2008年刊行『米国の図書館事情 2007』は極めて役に立つ資料である¹。特に, 職員も含めた公共図書館, 学校図書館, 大学図書館に関する統計は, これまでわが国には部分的にしか紹介されてこなかったアメリカの図書館事情を知る際に極めて有効である。アメリカの図書館では専門職と支援職(図書館サポートスタッフ=library support staff, 以下LSS)の職務が明確に区分されていて, 就職の際にもその区別は厳然として存在すると言われている²。『米国の図書館事情 2007』によると, 公共図書館, 大学図書館共に約7割の職員はLSSで占められている³。同書「1.3.1 司書養成・研修・採用」の項で, LSSの事情や養成に関して言及されている。また, 同書ではアメリカ図書館協会(American Library Association, 以下ALA)において2010年に始まった「図書館サポートスタッフ資格証プログラム」(Library Support Staff Certification Program, 以下LSSCP)にも言及し, そこでは「大学学部レベルでの図書館情報学教育のガイドラインである。」と記してある⁴。ただし, 7割を占めるLSSに関しては, その養成も含めて, わが国ではあまり知られていない。図書館員養成におけるLSSCPの位置づけを知るためには, より詳細な分析が必要である。

本研究はアメリカにおけるライブラリアンの専門職制の枠組みに関する研究の一環として行うものである。本稿では, アメリカにおけるLSSの養成を歴史的に概観し, その実態を明らかにすることを目的とする。本稿は, 「21世紀以前」と「21世紀以降」の2つから成る。この2つの時代区分を設定した上で, LSSの養成に関して, ①「ALAと図書館サポートスタッフ養成」, ②「図書館サポートスタッフ養成機関」という2つの視点から検討していく。まず,

時代区分設定の理由としては、21世紀に入ってからLSSの養成が大きく変化したことが挙げられる。また、養成機関に加えてALAを取り上げた理由としては、専門職ライブラリアンの養成と同様、ALAのLSS養成に対する関わりが大きいためである。なお、本稿では、Master of Library Science (以下、MLS) や Master of Library and Information Science (以下、MLIS) プログラムを修了し、専門職 (profession) として職務に従事する図書館員を専門職ライブラリアン、そして専門職以外に分類される図書館員をLSSと捉えることにする。

2. 21世紀以前の図書館サポートスタッフ養成

2.1 ALAと図書館サポートスタッフ養成

アメリカのLSS及びその養成を歴史的に概観すると、カーネギー財団 (Carnegie Corporation) の資金援助による『ウィリアムソン報告 (1921年, 1923年)』 (*Training for Library Service*) にまで遡ると言われている。『ウィリアムソン報告』では、図書館には専門職的な業務と事務職的な業務の2種があり、それらを明確にし、それぞれ別の教育機関で養成する必要があることが指摘された⁵。1927年には、ALAが図書館職を専門職と事務職に区分した『図書館職の分類と待遇計画への提案』 (*Proposed Classification and Compensation Plans for Library Positions*) を刊行し、専門職ライブラリアンとLSSの区分論議の実質的なスタートとなった。さらに、ALAは1939年に、①専門職 (professional)、②サブ専門職 (subprofessional)、③事務職 (clerical)、の3階層の人事組織案を提案した⁶。

1970年に、図書館職の区分及びその養成論議に関して、特にLSSの領域でALAの中で大きな変化が起こった。同年、ALA評議会 (ALA Council) は政

策方針「図書館教育とマンパワー」(Library Education and Manpower) を *American Libraries* に発表した。その政策方針の中で、ALA は図書館職を専門職 (professional) と支援職 (supportive) に区分し、支援職をさらに「事務職員」(clerk), 「図書館技術助手」(library technical assistant, LTA), 「図書館アソシエーツ」(library associate) の3種(3階層)に区分した。そして、それら支援職の職務と資格を明確にした。⁷

「図書館教育とマンパワー」が推奨する「図書館技術助手」については、当時 'library technician' という名称で広く図書館界で知られ、彼ら/彼女らを養成するコミュニティ・カレッジ (community college) が多数存在した。そのような状況において、ALA は 'library technical assistant' という 'library technician' とは少し異なる名称で、「図書館技術助手」という職を正式に承認したわけである。また、「図書館教育とマンパワー」では、「図書館技術助手」の職務は基本的に技術的であり、職務遂行には4年制の大学教育は不要としている。⁸

「図書館アソシエーツ」については、図書館現場では聞き慣れない名称であり、またALAの以前の文書にも存在しなかった用語であり職名であった。「図書館教育とマンパワー」は、「図書館アソシエーツ」をBAの学位(4年制の大学卒業で取得する学位)と幾分かの図書館経験があることを必要とする職位、と定義した。「図書館アソシエーツ」の職務は、日常の図書館運営を可能にする類のものであり、その種の業務は大学院レベルでの図書館学の履修を必要としない、と規定している。⁹

以上が「図書館教育とマンパワー」の概要である。その文書を読む限り、ALAはLSSの職務分析や養成にも大きな関心を抱いていたような印象を与える。しかし、事実は必ずしもそうではなかった。1960年代は図書館の拡張期に当たり、専門職ライブラリアンもLSSも絶対数で不足していた。そのような状況の中で、1966年にウィルソン財団(H. W. Wilson Foundation)の財政的支

援の基に ALA の中に図書館教育事務局 (Office for Library Education, 以下 OLE) が設置され, シカゴ大学図書館学部の名物教授アシャイム (Lester Asheim) が事務局長に就任した。図書館職員の養成と人的資源の有効活用を視野に入れたアシャイムの精力的な努力の結果が「図書館教育とマンパワー」であった。しかし, 1970年前後から図書館の規模は収縮期に向かい, 「図書館教育とマンパワー」は ALA の中でもあまり関心を払われなくなった。また, 図書館学の知識や経験よりも BA の学位レベルの教養を重んじた「図書館アシエーツ」という新しい職位は図書館界で議論を呼んだ。まもなくアシャイムは事務局長を辞めてシカゴ大学図書館学部に戻り, OLE も廃止された。政策「図書館教育とマンパワー」は, 図書館人的資源事務局 (Office for Library Personnel Resources) に引き継がれた。¹⁰

他方, ALA の中に設置されていた図書館教育部会 (Library Education Division) は, 1971年に「図書館教育とマンパワー」の中に盛られた LSS の養成を視野に, 事前に1969年に案として公表されていた「図書館メディア技術者養成プログラム規準」(Criteria for Programs to Prepare Library Media Technicians) を公式に承認した。すなわち, LSS の養成が ALA の正式方針になった。1979年には改訂されて, 名称も「図書館/メディア技術助手養成プログラム規準」(Criteria for Programs to Prepare Library/Media Technical Assistants) に変更された。¹¹

2.2 図書館サポートスタッフ養成機関

21世紀以前のアメリカにおける LSS の正式な養成は, 1937年のロサンゼルス市立大学 (Los Angeles City College) を嚆矢とする。同大学は“Clerical Library Aids”のプログラム名で, 2カ年の一般教育と図書館学の教育を行った。1948年にはアメリカ合衆国農務省大学院 (U. S. Dept. of Agriculture

Graduate School) で、1949年にはニューヨーク市 YWCA バラード学校 (Ballard School of New York City YWCA) で LSS の養成が行われた。1960年代に図書館が拡張期に入り、多くの図書館で LSS の需要が出現した¹²。

1976年には、39州にわたる130の LSS 養成プログラム (機関) が存在した。約7,000人が登録しており、5分の3は部分受講で、大多数が女性であった。これら養成機関は、ALA の「図書館メディア技術者養成プログラム規準」ではなく、連邦政府教育局 (U. S. Office of Education) が1973年に刊行している『図書館技術助手のための高等学校後2カ年カリキュラム案』(*A Suggested Two-Year Post High School Curriculum: Library Technical Assistant*) に則ってプログラムを開発していた¹³。

1982年には、ALA 常設図書館教育委員会 (ALA Standing Committee on Library Education) がリスト「図書館技術助手プログラム」(Library Technical Assistant Program) を作成した。そのリストには、カナダを除いて120機関がリストされていた¹⁴。

以上のことを概括すると、1960年代に LSS の需要が高まり養成機関も増加したが、1980年代に入ると幾分か減少傾向が見られた。とはいえ、1980年代の LSS 養成機関120という数字は、MLS、あるいは MLIS プログラムを設置する機関数と比較すると、大きな数字である。具体的なイメージを把握するために、次節でマルティーズ (S. M. Maltese) とバーク (J.J. Burke) の調査に基づき1980年代及び1990年代における LSS 養成機関の状況を概観する。

2. 2. 1 1984年の図書館サポートスタッフ養成機関

この項では、主としてマルティーズの調査を基に1984年の LSS 養成機関の状況を概観する¹⁵。マルティーズは、これまで LSS 養成機関に関するまとまった報告が存在しないとして、1984年に実態調査を行っている。マルティーズは、

1982年のALA常設図書館教育委員会作成のリスト「図書館技術助手プログラム」に掲載されている, カナダを除く120機関を対象にアンケート調査を行った。その結果, 既にプログラムを廃止した, もしくは廃止計画中である機関が多数存在し, 1984年当時コミュニティ・カレッジでは67機関がLSS(LTA)養成を行っていた。

67機関に依頼して入手したプログラムの案内書の多くは, 'paraprofessional'の用語でLTAの職務を説明し, それ以上の職務は望めないことを学生に明確に示している, とマルティーズは分析する。しかし, ALAの「図書館教育とマンパワー」には上位の職種である「図書館アソシエーツ」(library associate)も'paraprofessional'のカテゴリーに入っており, そのことは現場では無視されている, とマルティーズは指摘する。

開講科目に関しては, 大多数の大学が伝統的な科目, すなわち「目録」, 「レファレンス」, 「逐次刊行物管理」等を開講している。また, ALAの養成規準に沿って大多数の大学が実習を課している。他方, 主題領域を持つこと(specialization)に関しては, 大学にその余裕はないようだ, とマルティーズは分析する。しかし, 大学によっては, 「情報の蓄積と探索」(information storage and retrieval), 「ファイル管理」(file management), 「オンライン検索」(online searching)等の新科目を導入しているところもある。

履修学生に関して, 1984年の秋学期の履修学生数は1校当たり2~30人である。1975~1978年が履修学生の最も多かった時期で, ある大学では160人, 別の大学では140人も在籍していた。1978年に160人履修していた大学は, 1984年現在20人しか登録しておらず, 1985年にはプログラム廃止の予定である。

学生の背景に関して, その報告している16大学のうち14大学が, 履修している過半数の学生は図書館で働いた経験を持つか, 現在働いていると述べている。ちなみに, マルティーズは, 1975~1978年の時期に履修学生が多かった要因と

して、LTA 学生に潤沢な奨学金が授与されたことを挙げている。そして、1980年代に養成機関と学生数の両方が減少している要因として、LTA の職の減少を挙げている。

2. 2. 2 1999年の図書館サポートスタッフ養成機関

この項では、主としてパークの調査を基に1999年のLSS 養成機関の状況を概観する。1999年現在、LSS 養成機関は17州にわたり、46機関が養成¹⁶している。

LSS の養成のほとんどがコミュニティ・カレッジでなされているが、それはコミュニティ・カレッジが準学士号や資格証を授与している機関ゆえであろう、とパークは推察する。そして、コミュニティ・カレッジがLSS 養成プログラムを設置する際には、コミュニティ・カレッジの図書館が運営部署となり、図書館員が教員になるのはごく自然である、とパークはいう。他方、その際には、図書館の地位が高まる半面、図書館員の職務の再編等の問題も発生する、とパークは指摘している。

2. 2. 2. 1 プログラム名称

LSS の養成プログラムの名称は、多様である。しかし、それらの名称に共通しているのは「図書館」と「技術」を強調している点である。例えば、3分の2の機関のプログラム名には、'Library Technology', 'Library Technical Assistant', もしくは 'Library Information Technology' の用語が、残り3分の1には、'Library Media Technology', 'Library Associate', 'library Science' 等の用語が使われている。ちなみに、カナダには1999年現在で20のLSS 養成機関があるが、ほとんどの機関は 'Library Information Technology' もしくは 'Library Information Technician' の用語を使っている。総じて、MLS プログラムと同様、北米のLSS 養成機関は伝統的な 'library/media technology' (図書館とメディア技術) から 'information' (情報技術) を含む用語を使うように

なっている, とパークは指摘している。

2.2.2.2 学位と資格証

ほとんどのLSS養成機関は準学士号を授与している。それらの名称は, 'associate degree in the arts', 'associate degree in the applied arts' もしくは 'associate degree in technology studies' である。準学士号を取得するためには2カ年を要するが, 部分受講による履修では2カ年以上かかることもある。また, ほとんどのLSS養成機関は資格証(certificate)も授与している。資格証のための履修すべき科目は準学士号のためのコア科目群からなる。資格証を取得するためには, 履修方法によるが, 通常1~2年かかる。

2.2.2.3 カリキュラム

多くのLSS養成機関において, コア科目は共通している。それらは以下の通りである。

- 1) 図書館と図書館業務を紹介する入門(概論)科目
- 2) 1科目またはそれ以上のパブリック・サービス関係の科目
(レファレンスは必ず含まれている)
- 3) 1科目またはそれ以上のテクニカル・サービス関係の科目
(カタログギングは必ず含まれている)
- 4) 図書館の自動化, もしくは図書館技術関係の科目
- 5) 図書館管理, もしくは監督スキルと関連する科目
- 6) 1学期, もしくはそれ以上の実習

各養成機関の提供する科目は, コア科目以外は多様性に富んでいる。図書館倫理を必須科目にしている大学もあれば, 閲覧, 収集, 図書館利用教育, 等を強調する機関もある。図書館技術関係の科目は全ての大学で開講されているが, 「データベースI」, 「データベースII」などと, 複数の科目を必須にしている機関もある。ワープロや他の事務用ソフトウェア, インターネット, Web

ページ作成など、標準的な技術科目は必須になっているが、それらは他の学科で開講されている場合が多い。

大学によっては、学生に主題領域を持つことを認めている。例えば、学校図書館を主題領域（専攻）とすることを認めている大学もあり、その種の大学では科目「児童サービス」が開講されている。医学図書館や法律図書館の主題領域を持つこと（専攻）を認めている大学では、'Medical Research' や 'Legal Research' などの科目が開講されている。

2. 2. 2. 4 授業方法

1999年現在、カナダも含めたLSSの養成機関として66大学が存在する。その中で少なくとも10大学は遠隔教育を行っている。Indian River Community College（フロリダ州）とRose State College（オクラホマ州）は、Webを利用して科目を提供し、教員とのやり取りはEメールで行っている。Illinois Central College（イリノイ州）は、ビデオ会議（video conferencing）の方法で講義を行っている。

遠隔教育の範囲に関してはさまざまである。Lewis and Clark Community College（イリノイ州）は、隣の郡までしか範囲を広げていない。Indian River Community College, Rose State College 及び College of DuPage（イリノイ州）は州全域にまで範囲を広げている。1999年時点では、University of Maine at Augusta だけがインターネットを利用して全米及び全世界にプログラムを展開し、修了者には準学士号を授与している。

2. 2. 2. 5 履修学生

履修学生に関しては、正確な人数を把握するのは困難である。準学士プログラムに登録している学生のほとんどは、就職先や家族の関係で部分受講をしている。国立教育統計センターの*Digest of Educational Statistics*によると、1985/86～1995/96年間の準学士号取得者の年平均は102人であった。しかし、

国立教育統計センターは30～36大学からの報告に基づいた平均であり、実数はもっと多いだろう、とパークは推測する。また、資格証も加えると、1990/91～1995/96年間は、上記の数字に140人を加えたのが平均修了者の数になる、とパークは述べている。

3. 21世紀以降の図書館サポートスタッフ養成

3.1 ALA と図書館サポートスタッフ養成

3.1.1 「図書館情報学と人的資源利用政策」

前節で概観した「図書館教育とマンパワー」は、1976年に用語の修正がなされた。本格的な改定は、人的資源開発・求人事務局 (Office for Human Resources Development and Recruitment, 以下 HRDR) によって2002年になされた。そして、名称は、「図書館情報学と人的資源利用政策」(Library and Information Studies and Human Resource Utilization Policy, 以下 LISHRUP) となった。現在の ALA の図書館職員の組織に関する基本的な政策はその2002年版である。¹⁷

LISHRUP は、「図書館教育とマンパワー」を引き継ぎ、図書館では図書館学系と非図書館学系の2種の職員が必要であるとしている。そして、LSS に関しても、図書館学系と非図書館学系の2種の職員が必要であるとしている。図書館学系の LSS として、事務職員 (clerk), LIS 助手 (LIS assistant), LIS アソシエーツ (LIS associate), の3つの職種を推奨している。それら3種の職務と資格に関しては、次のように記している。事務職員は一般的な事務と秘書的な業務をする人のカテゴリーである。高等教育機関での教育・訓練は必要でなく、図書館関係の知識やスキルは職場で習得できる。LIS 助手は、初歩的文

献サーチや特定ツールの使用など、図書館関係で特殊なスキルを有する人のために設けられている。LIS 助手が遂行する業務は 4 年制レベルの一般教育を必要としない。アソシエーツのカテゴリーは、図書館に関する知識やスキルよりも、学士号で象徴される 4 年制レベルの一般教育を必要とする。特定の業務に対する教育経験やバックグラウンドに基づき、LIS アソシエーツになったり、アソシエーツ・スペシャリスト (associate specialist) になったりする。アソシエーツのカテゴリーは、専門職レベル以下で働く将来有望な人へ専門職ライブラリアンになる機会を与える。例えば、図書館で働きながら、図書館学修士課程で学ぶ学生がアソシエーツ・カテゴリーに入る¹⁸。

3. 1. 2 「図書館技術助手養成プログラム規準」

ALA は LSS の養成に関して、1960 年以前はあまり積極的でなかったと言われる。しかし、1971 年には LSS の養成規準として「図書館メディア技術者養成プログラム規準」を公式方針として採用している。その規準は、教育委員会 (Committee on Education, 以下 COE) に引き継がれ、1979 年に改訂された。その名称も、「図書館技術助手養成プログラム規準」(Criteria for Programs to Prepare Library Technical Assistants, 以下 CPPLTA) に変更された¹⁹。

COE は、時代や状況の変化に対応すべく、1998 年に再度の改定を行った。改定作業には、COLT を含め、CLENE (Continuing Library Education Network and Exchange Round Table), LAMA (Library Administration and Management Association), SRRT (Social Responsibilities Round Table), ALSC (Association for Library Service to Children), IRRT (International Relations Round Table), GODORT (Government Documents Round Table), LITA (Library and Information Technology Association), CJCLS (ACRL Community and Junior College Libraries Section), EMIERT (Ethnic & Multicultural Informa-

tion Exchange Round Table), ALISE (Association for Library and Information Science Education) 等, ALA の多くの部署の代表が参加した。そして, ALA の正式の政策方針とすべく2001年に ALA 評議会 (ALA Council) に提出した。しかし, ALA 評議会の承認を得ることができなかった。

ALA 主催で2003年に開催された会議 “Congress on Professional Education III” (通称: COPE III) では LSS がメインテーマであった。その会議は, 1999 年に開催された “Congress on Professional Education” (通称: COPE I) に触発された LSSIRT による強い要求があって開催された。会議には州や地域の図書館サポートスタッフ協会からの代表も含め, 種々の関係団体からの代表 154人が参加し, LSS の様々な問題が議論された。また, LSS に関する数多くの事項が決議されたが, その中に, 「ALA は, COE によって1998年に改定された「図書館技術助手養成プログラムの規準」を承認すること。そして, それらの規準を定期的に評価・分析するプロセスを確立すること。], という事項が含まれていた。

そのような状況の中で, 2004年にいくぶんの修正を施して再提出し, ALA Council の承認を得た。それが, 2010年現在でも有効な LSS の養成に関する ALA の正式文書である。正式文書になるまでにそのようなプロセスを要したのは, ALA 評議会の LSS 養成に関する関心の薄さと消極的な姿勢のせいであった, と推測される。そのように推測する要因の1つは, COE 作成の1998年版と ALA 評議会によって2004年に最終的に承認された文書の間には内容的な相違はほとんどなく, 用語にいくつかの変更がある程度だからである。以下に,²⁰ ALA 評議会によって2004年に承認された, 2010年現在でも有効であるその ALA 規準を概観する。しかし, 規準は ALA の規定するすべての LSS の養成をカバーしている訳ではない。上記のように, ALA は「図書館教育とマンパワー」で LSS を「事務職員」「図書館技術助手」, 「図書館アソシエーツ」の3

種(3階層)に区分した。そして、LISHRUPは、図書館学系のLSSとして、事務職員、LIS助手、LISアソシエーツ、の3つの職種を推奨している。CPPLTAは、その中の「図書館技術助手」(library technical assistant=LIS助手)を養成するための規準である。CPPLTAの構成は、①「図書館技術助手と正式なプログラム」、②「プログラム計画」、③「プログラムの経営と財政」、④教授陣、⑤施設及び設備、⑥準学士号のためのカリキュラム、⑦資格証のためのカリキュラム、⑧学生の募集と選別、⑨学生の学習進展、就職、フォローアップ、⑩補助的訓練、⑪「付録：図書館技術科目」、の11部構成となっている²¹。その中から、以下に重要と思われる部分を概観する。

3.1.2.1 規準に対する基本的な考え方

1) LTA (Library Technical Assistant) とは、図書館における特定の技術的スキルを有している人のことである。LTAは、チームのメンバーとして、図書館の機能を効果的に達成するために必須のサービスを遂行する。LTAは、図書館の中で確立されたシステムを運用及び維持、管理する。職務は、図書館アソシエーツ (Library Associate) や上位の職種への支援スタッフとして遂行される。それは、規則や決まっている手続きに従って遂行されるが、トップレベルのLTAの職務にはそれら職務の監督も含まれる。LTAカテゴリーは特定の技術的スキルを想定している。単なる高位の事務職ではない。事務的なスキルはLTAの職務範囲かもしれないが、特定の技術的スキルが強調されるべきである。多くの図書館において、LTAによって図書館の特定機能の運用が日常的に可能となっている。しかし、方針を決定したり、利用者のニーズを満たす方法を決定したりするのはLTAの職務ではない。LTAはライブラリアン、図書館スペシャリスト (Library Specialist)、図書館アソシエーツ、その他の監督者へ報告する義務を負う。

2) CPPLTAは、LTAの養成計画もしくは現存する養成プログラムの評価

指針として役立つことを意図している。そして、LTA のさまざまな職位の中での初任ポストを養成することを目的としている。メディア製作やコンピュータ分野における特殊技術士や技術助手の養成は、図書館アソシエーツの養成と同様、この規準の意図するものではない。

3. 1. 2. 2 プログラム計画

LTA 養成プログラムの設置を計画するコミュニティ・カレッジは、最初に、地域諮問委員会 (local advisory committee) を置くこと。その委員会のメンバーは地域の潜在的雇用者を代表すること。次の人たちをメンバーに含めること。① 州立図書館からの代表者、② 地域の大規模図書館の館長、③ 学校図書館メディア監督者 (school library media supervisor)、④ 地域の4年制大学のライブラリアン、⑤ 地域の専門図書館の館長、⑥ 州図書館協会からの代表者、⑦ 地域のLTA。

3. 1. 2. 3 プログラム運営と教授陣

LTA 養成は職業教育であり、学士号にはつながらないプログラムである。適切な教育部署を置き、その部署によって運営されること。図書館長以外に専任のプログラム長を置くこと。プログラム長は、該当する領域での修士号を取得していることが望ましい。教授陣として、プログラム長以外に少なくとも他の専任の教育者が存在すること。教授陣は、最近、教授する領域において職務経験があること。

3. 1. 2. 4 カリキュラム I (準学士号: Associate Degree)

1) 準学士号 (Associate Degree) を授与する2カ年課程のカリキュラムは、① 教養科目 (General education courses: 全カリキュラムの50%)、② 図書館技術科目 (Library technical courses: 30%)、③ 図書館技術専門に関連する科目 (Courses related to the library technical specialty program: 20%)、の3領域で構成されること。

2) 学生の個人的関心や雇用状況により, ①personal computer applications, ②computer networking, ③computer repairs and maintenance, ④maintenance and operation of audiovisual equipment, ⑤multimedia materials production, ⑥office management, ⑦medical terminology, 等の領域で主題領域を持つことを可能にすること。

3) 地域の図書館での実習があること。実習は原則としてプログラムが設置されている大学の図書館以外でなされること。

4) LTA 養成プログラムは, 学部教育の最初の2カ年に相当する。そこで履修される科目は, 上級学部や大学院で履修される図書館学の科目の代替にはならない。しかし, それら科目の4年制プログラムへの流用することの可否は各大学の判断による。

3. 1. 2. 5 カリキュラム II (資格証: Certificates)

1) 資格証 (Certificate) プログラムは, すでに学位を有している人, もしくは他の領域で学位プログラムに登録している人のためにある。資格証プログラムは, 4年制大学で図書館学を開講していない州の大学へ転入することを計画している人に有益となる。

2) 資格証を取得するのに必要な科目は, 基本的に準学士号を取得するのに必要な専門科目 (コア科目) と類似している。

3. 1. 2. 6 図書館技術科目 (Library Technical Courses) (モデル)

CPPLTA (「図書館技術助手養成プログラム規準」) には, 付録として, カリキュラム全体の約30%を占めることを推奨されている図書館技術科目 (モデル) が, 科目内容の説明も含めて掲載されている。以下, 科目名のみリストする。それらの科目は, 通常, コア科目と称されるものである。

* An introduction to Libraries and the Information Industry

* Introduction to Technical Services: Acquisition Processes

- * Introduction to Technical Services: Cataloging Processes
- * Introduction to Public Services: Circulation Services Processes
- * Introduction to Information Sources and Services
- * Workplace Survival Skills
- * Practicum and Seminar

以上, ALA 評議会によって2004年に承認された, 2010年現在でも有効な CPPLTA を概観した。規準は, 準学士号プログラムと資格証プログラムの2種を準備しているが, その相違はあまり明確でない。資格証プログラムは, LISHRUP のいう LIS アソシエーツの養成のようにも思われるが, 規準の名称は「図書館技術助手」となっており, 資格証プログラムも図書館技術助手の養成と理解するのが妥当であろう。

3. 1. 3 図書館サポートスタッフ資格証プログラム

ALA において, 2010年から LSSCP (「図書館サポートスタッフ資格証プログラム」) が開始された。以下に, その経緯と内容を概観する。

3. 1. 3. 1 経緯

LSS の関心事を議論し, 彼ら/彼女らの待遇改善を計る組織として, 1994年に LSS 会員を中心に ALA の中に Library Support Staff Interest Round Table (以下, LSSIRT) が設置された。1997年に, LSSIRT は, 現場の LSS 状況やその課題を把握することを目的とした実態調査を行った。その結果, LSS が全米的な資格証プログラムの設置に大きな関心を抱いていることが分かった。²²

2003年に開催された上記 COPE III の推薦事項の中に, 「ALA は LSSIRT 等と協力して, ALA-APA によるサポートスタッフ資格証プログラムの可能性を調査すること」, があつた。²³

2005年, ALA は国立教育統計センター (U. S. National Center for Educa-

tion Statistics) の作成した資料を基に図書館職員を調査した。その結果、大学図書館と公共図書館には約28万人の職員が働いており、約70%はMLSを有しないLSSであることが分かった。ALAは、そのような状況や、さらにCOLTやLSSIRTの強い要望や要求も踏まえ、全米的な資格証プログラムの実施計画を立てた。ALAは、全米的な資格証プログラムの利点として、次の5点を挙げた。①図書館界がLSSに期待するものを標準化できる、②要求される職務能力を大多数のLSSが獲得できる、③LSSの養成機関に対してはカリキュラム指針として役立つ、⑤雇用者にとっては職務要件を明確にするのに役に立つ、である。²⁴

LSSIRTは、2005年にHRDR(人的資源開発・求人事務局)と共同でLSSを対象に資格証プログラムに関する調査を行い、約3000人から回答を得た。その結果、約86%のLSSが全米的な資格証は有用であると回答し、約76%がそのような資格証プログラムは図書館サービスの改善につながり、自分たちの能力のレベルアップにも役に立つと回答した。²⁵

他方、当時の公共図書館界は、地方自治体の財政的な逼迫や専門職ライブラリアンの絶対数の不足等から、小規模の図書館や地域館においては専門職ライブラリアンを雇用できない状況にあった。そのような状況の中で、2003年に西部州図書館協会(Western Council of State Libraries: ミシシピー河以西の22州の州立図書館が会員)は「図書館実践者にとっての必須スキルの同定と訓練機会の増加」(Defining the Essential Skills of Library Practitioners and Increasing and Improving Training Opportunities)というテーマで連邦政府機関のInstitute of Museum and Library Services(以下、IMLS)にプロジェクト助成を申請し受理されていた。西部州図書館協会のいう「図書館実践者」とは、「MLSを有しない館長」を指していた。そして、2007年には「図書館実践者」のためのプログラムを開発し、資格証を授与し始めた。²⁶ そのことを知った

ALA は、共同で LSSCP を設置すべく2007年に西部州図書館協会に打診・交渉した。その結果、共同で LSSCP プロジェクトを開始すべく、IMLS に助成申請を提出することになった。助成獲得に成功し、ALA-APA は2009年に4機関（組織）に LSSCP の実験プロジェクトを依頼し、2010年には本格的な LSSCP を開始した。それに伴い、西部州図書館協会は独自の認証プログラムを中止した。²⁷

3. 1. 3. 2 ALA 及び ALA-APA の LSSCP に対する基本的な姿勢

1) LSSCP は、大学図書館と公共図書館で働いている LSS が対象である。ここでいう LSS とは、パラプロフェッショナル (paraprofessional), 図書館技術者 (library technician), 図書館助手 (library assistant), 図書館アソシエーツ (library associate), パラライブラリアン (para-librarian), など呼ばれている図書館職員のことで、MLS を有しない職員を指す。学校図書館のサポートスタッフに関しては、多くの州が特殊の要件を設けているため、学校図書館のサポートスタッフは LSSCP の対象から除外してある。

2) 多くの州が LSS を対象とする資格証プログラムを設置している。しかし、能力や評価等において一貫性がなく、また能力ベース (competency-based) になっていない場合が多い。その上、それら資格証は州間で互換性がない。LSSCP がそれらのことを可能にする。LSSCP は LSS に対して全米的な保証と個人の能力の追加的認証を与えることにより、州のプログラムを補強することを目的としている。²⁸

3) LSSCP は、現在、全米で約50のコミュニティ・カレッジに設置されている準学士号や資格証を授与する LTA プログラムに取って代わるものではない。LSSCP は科目を直接提供するのではなく、他機関からの科目提供に頼っている。したがって、コミュニティ・カレッジの LTA プログラムは LSS の重要な教育機関である。

4) LSSCP は、多様性の向上にも貢献することになる。2000年現在、MLSを有するマイノリティ・ライブラリアンは11%である。1990～2000年間に図書館情報学部のマイノリティ学生は152%増加したが、それでも全学生の13%にも満たなかった。MLSを有するライブラリアンの81%は45～54歳の白人女性である。2002年現在、マイノリティのLSSは29%である。そのような状況下で、LSSCPはマイノリティ・スタッフの向上にもつながると推測する²⁹。

3. 1. 3. 3 カリキュラム

ALAとALA-APAは、LSSCPのカリキュラム作成に際して、2008年に調査を行った。表1が調査の対象になった人々である³⁰。

表1. カテゴリー別回答者

	LSS	MLS	館長	他	合計
大学図書館	658	572	210	139	1,579
公共図書館	438	560	298	230	1,526
他の図書館	114	181	67	124	486
合計	1,210	1,313	575	493	3,591

典拠：Applegate, Rachel. "Academic Library Support Staff Competencies: What Should Support Staff Know and be Able to Do?". IUPUIScholarWorks. <https://scholarworks.iupui.edu/handle/1805/1878>. (参照2010-12-18).

そして、「1：重要でない」、「2：重要」、「3：非常に重要」の尺度を使って調査した。その結果、上位にランクされた領域を調査対象者のカテゴリー別に示したのが表2である。

表2. 重要度が高かった領域

	LSS(%)	MLS(%)	Director(%)	Average Importance
Access Services	48	38	78	2.58
Reference	48	58	78	2.52
Technical Services	50	51	73	
Cataloging				2.5
Acquisitions				2.4
Collection Development				2.23
Technology	59	64	81	2.53
Communication - Teamwork	59	60	74	2.68
Supervision - Management	46	47	70	2.43
Foundations	46	52	69	2.58

典拠：Applegate, Rachel. "Academic Library Support Staff Competencies: What Should Support Staff Know and be Able to Do?". IUPUIScholarWorks. <https://scholarworks.iupui.edu/handle/1805/1878>. (参照2010-12-18).

上記の調査結果を参考にしながら, ALA と ALA-APA は LSSCP のカリキュラムを開発した。そして, 以下のような 3 つの必須領域と 7 つの選択領域を設定し, 選択領域からは 3 領域を履修することにした。

必須領域

- * Foundations of Library Services
- * Communication and Teamwork
- * Technology

選択領域

- * Access Services
- * Adult Readers' Advisory Services
- * Cataloging and Classification
- * Collection Management
- * Reference and Information Services
- * Supervision and Management
- * Youth Services

3. 1. 3. 4 科目提供機関(組織)

LSSCP の特徴の 1 つは, 資格証を授与するための科目を ALA や ALA-APA が設置するのではなく, 他の機関(組織)に設置を依頼していることである。上記のように, 2007年に西部州図書館協会と共同で IMLS に助成申請を提出し, 2009年に 4 機関(組織)に LSSCP の実験プロジェクトを依頼した。そして, 2010年現在, 表 3 にあるような機関(組織)が科目提供機関(組織)になっている。³¹

以上, LSSCP の設置経緯, カリキュラム, 科目提供機関(組織)等を概観した。また, ALA 及び ALA-APA の LSSCP に対する基本的な考え方についても確認した。ACRL/CJCLS (ACRL Community and Junior College Libraries Section) は LSSCP のような個人への資格証授与プログラムよりも, MLS プ

表 3. 科目提供機関(組織)の例

提供機関(組織)	科目名	提供法
Access Services 領域		
Fresno Pacific University	Access Services	Online, asynchronous
Northern Kentucky University	Access Services	Online, asynchronous
Adult Readers' Advisory 領域		
College of DuPage	Readers Advisory	Face-to-face
Cataloging and Classification 領域		
Illinois Central College	Cataloging and Classification	Online, asynchronous
Palomar College	Cataloging	Face-to-face
Univ. of Wisconsin, Madison	Cataloging and Classification	Online, asynchronous
Collection Management 領域		
Assoc. for Library Collections and Technical Services	Collection Management	Online & face-to-face
Long Beach Community College	Introduction to Acquisitions	
Spokane Falls Community College	Technical Services I: Acquisitions	Online, asynchronous
Communication and Teamwork 領域		
Palomar College	Communication and Teamwork	Face-to-face
University of North Texas	Communication and Teamwork	Online, asynchronous
Foundations of Library Services 領域		
Pasadena City College	Introduction to Library Services for Paraprofessionals	Face-to-face
Ivy Tech Community College	Introduction to Libraries and Library Services	Online, asynchronous
Reference and Information Services 領域		
Highline Community College	Reference and Information Services	
Amigos Library Services	Reference	
InfoPeople	Reference Fundamentals	Online, asynchronous
Supervision and Management 領域		
Ivy Tech Community College	Management & Supervision	Online, asynchronous
State Library of Louisiana	Supervision and Management	Combination of online & face-to-face
Technology 領域		
Fresno Pacific University	Technology	Online, asynchronous
Perez Library Technology Consulting	Technology	Online, synchronous and asynchronous
Youth Services 領域		
Northern Kentucky University	Youth Services	Online, asynchronous

典拠: ALA-APA. "Approved Courses". Library Support Staff Certification. <http://ala-apa.org/lssc/approved-courses> (参照 2010-12-18).

プログラムのような機関プログラムの認定により関心を持っていた。それにも関わらず、LSSIRT や COLT の強い要望や要求によって、個人への資格証授与プログラムが実現した。LSSCP は LSS 養成の全米版と言える。LSSCP の授与する資格証が全米的に通用する資格証であるため、今後 LSS の就職や待遇等の面で大きなプラス影響を及ぼすと推測される。しかし、LSSCP の設置に

よって、ALA は専門職ライブラリアンの養成とは異なるアプローチを取ることになり、それぞれの養成方法の調整は1つの課題であろう。

LSSCP は、パラプロフェSSIONナル、図書館技術者、図書館助手、図書館アソシエーツ、パラライブラリアン、などと呼ばれている図書館職員を対象にしているという。他方、2002年に改訂されたALAの図書館職員の組織に関する基本政策であるLISHRUPでは、図書館学系のLSSとして、事務職員、LIS助手、LISアソシエーツ、の3階層を設け、それぞれに要求される資格(学歴等)は異なると規定されている。それとの調整がもう1つの課題として残っていると見えよう。

3.2 図書館サポートスタッフ養成機関

3.2.1 2005年の図書館技術助手養成機関

前節で2004年に正式にALAの方針となったCPPLTA(「図書館技術助手養成プログラム規準」)を概観したが、その規準がどのくらい実現されているかを、スラサー(L. Slusar)が2005年に調査している³²。ここでは、その調査結果を基に2005年のLSSの養成機関の状況を概観する。

スラサーは、2005年現在、図書館技術助手を養成しているコミュニティ・カレッジが48校存在することを確認し、それら48大学を対象にアンケート調査を実施した。その結果、31大学から回答を得た。以下に記すのは、そのうちの29大学の州ごとの大学名、履修学生数、プログラム年数である³³。

Arizona : ① Mesa Community College: 100人, 38年. ② Northland Pioneer College: 15人, 25年

California : ① Citrus College: 30人, 49年. ② City College of San Francisco: 不明, 40年. ③ College of the Canyons: 15人, 8年. ④ College of the Se-

quias: 21人, 5年. ⑤ Cuesta College: 137人, 39年. ⑥ Diablo Valley College: 40人, 32年. ⑦ Fresno City College: 40人, 16年. ⑧ Hartnell College: 0人, 30年. ⑨ Imperial Valley College: 20人, 30年. ⑩ Palomar College: 35人, 35年. ⑪ Pasadena City College: 102人, 6年. ⑫ Santa Ana College: 20人, 40年.

Colorado : ① Pueblo Community College: 65人, 15年.

Connecticut : ① Three Rivers Community College: 20人, 31年.

Florida : ① Indian River Community College: 不明, 14年.

Idaho : ① College of Southern Idaho: 11人, 37年.

Illinois : ① College of DuPage: 184人, 38年.

Indiana : ① Ivy Tech State College: 15人, 新規.

Maine : ① University of Maine at Augusta: 450人, 10年.

Michigan : ① Oakland Community College: 50人, 40年.

Minnesota : ① Minneapolis Community & Technical College: 40人, 2年.

Nebraska : ① Northeast Community College: 65人, 1年.

New Mexico : ① Clovis Community College: 10人, 17年. ② Dona Ana Community College: 80人, 10年.

North Carolina : ① Central Caroline Community College: 70人, 5年.

Oklahoma : ① Rose State College: 20人, 26年.

Washington : ① Spokane Falls Community College: 20人, 28年.

上記のリストは、図書館技術助手を養成しているコミュニティ・カレッジである。³⁴すべてのコミュニティ・カレッジを載せている訳ではないが、カリフォルニア州に特に多いことが特徴的である。

「図書館は人なり」という標語があり、図書館運営における図書館員の役割

は非常に重要である。アメリカの図書館界では約3分の2がLSSであることを踏まえれば、日常の図書館運営に果たすLSSの役割は大きいと言える。そのような視点に立つと、カリフォルニア州が図書館サービスの向上に熱心であると解釈することも可能であろう。ただし、これはあくまでもLSSの養成からのみ該当することであり、これらの大学が専門職ライブラリアンの代替としてLSSを養成している可能性も考えられる。これについては今後の検討課題となろう。

スラサーは、CPPLTAの実現度も調査しており、その結果は以下のようになっている。

- * 諮問委員会を置いている大学：25/31大学
- * 専任主任 (director) の有無：有が8大学, 無 (兼任) が21大学
- * プログラム予算の類型：17%がプログラム独自の予算, 28%が図書館の予算, 55%がプログラムと図書館予算の合併型
- * 学位や資格証：11大学が Associate in Arts degree, 7大学が Associate in Science degree, 9大学が Associate in Arts and Science degree, 22大学が資格証
- * 授業形態：24大学が伝統的な face-to-face 型, 18大学が Online 型, 9大学が混合型 (合計が51大学になるが, その数字の意味するところは, 伝統的な face-to-face 型で教えている大学は24大学あり, その24大学の中には Online 型で教えている科目もあるということであろう。)
- * プログラム設置における州の許可の要不要：要が27大学, 不要1大学

CPPLTA はコア科目の図書館技術科目のモデルを挙げているが、スラサーはそれがどの程度採用されているかも調査している。結果は、以下の通りで

あった。

- * An Introduction to Libraries and the Information Industry (28/31大学)
- * Introduction to Technical Services; Acquisition Processes (28/31大学)
- * Introduction to Technical Services; Cataloging Processes (27/31大学)
- * Introduction to Public Services; Circulation Services Processes (26/31大学)
- * Introduction to Information Sources and Services (28/31大学)
- * Workplace Survival Skills (18/31大学)
- * Practicum and Seminar (25/31大学)
- * Other (25/31大学)

上記の数字から、LTA 養成機関の多くが CPPLTA を重視し、それに則ったカリキュラムを組んでいると推測される。また、LTA 養成プログラムは州密着型の職業教育になっているとも言える。

スラサーのリストする大学を20年単位で分類してみると、28大学のうち14大学が設置後20年以上の経歴を持ち、残りの14大学は過去20年以内(1985年以降)に設置されている大学である。マルティーズやバークの調査結果も考慮すると、専門職ライブラリアンの養成機関と比較しても、LSS 養成機関は浮き沈みが激しいと言える。ちなみに、ALA 認定の専門職ライブラリアンの養成機関は、カナダを除いて2010年現在50機関存在するが³⁵、1980年以降に設立された機関は3大学³⁵だけである。ただし、ALA 認定の専門職ライブラリアンの養成機関も、1980-99年の間に17大学の学部が閉部に追い込まれており、アメリカの図書館職員の養成という観点からは、そのような図書館員養成全体を取り巻く状況についても記憶に留める必要がある。

アメリカは50州で構成されているにも関わらず、スラサーのリストには16州

しか挙げられていない。CPPLTA は、養成機関に対して、その機関が設置されている州の図書館技術助手の養成を基本とするよう求めている。そのことを考慮すると、2005年現在、多くの州では正式の養成機関(大学)がなく、各図書館はOJT (on-the-job training) でLSSを養成していると推測される³⁶。

3. 2. 2 事例研究

LSSの養成機関の事例研究として、ケンタッキー州にあるコミュニティ・カレッジと4年制大学の2大学のカリキュラムや授与する資格等を概観する。ケンタッキー州を取り上げた理由の1つは、上述のように、その4年制大学はALAのLSSCPへ科目を提供する機関の1つになっているからである。他の理由は、ケンタッキー州では州法により専門職及びLSSの資格及び学歴に関して、以下のように明確な基準が設けられているからである。

ケンタッキー州の州法によると、公共図書館で働くには、専門職レベルであろうと非専門職レベルであろうと、以下のような資格が必要とされる³⁷。

* 図書館経験資格証 (Library Experience Certificate)

① 4単位の図書館学履修、② 3単位の図書館学履修と職務と関係のある領域での1単位の履修、③ 2単位の図書館学履修と10年間の図書館職務経験、④ 学士号と2単位の図書館学履修、の中のいずれか。

* パラプロフェッショナル資格証 (Paraprofessional Certificate)

① 5単位の図書館学履修と5年間の図書館職務経験、② 4単位の図書館学を含む20単位の大学での科目履修と2年間の図書館職務経験、③ 学士号と4単位の図書館学履修、④ 修士号と2単位の図書館学履修、の中のいずれか。

* 専門職 I (Professional I)

ALA 認定の図書館情報学部からの修士号

* 専門職 II (Professional II)

① ALA の認定を受けていない図書館情報学部からの修士号, ② 修士号と大学院レベルの 5 単位の図書館学履修, 中のいずれか。³⁸

3. 2. 2. 1 ブルーグラス・コミュニティ・技術大学 (Bluegrass Community & Technical College) (事例 1)

ブルーグラス・コミュニティ・技術大学 (Bluegrass Community & Technical College) は, レキシントン市 (Lexington) にあるクーパー・キャンパス (Cooper Campus) を含め, 7つのキャンパスからなるネットワーク型コミュニティ・カレッジである。同コミュニティ・カレッジは, 準学士号 (associate degree), 修了証 (diploma), 資格証 (certificate), 等を授与する200以上のプログラムを設置している。準学士号に関しては, 4年制大学への転入可能な学位 (transfer degree) と技術/専門職学位 (technical/professional degree) の2種を設けている。学生が準学士号を取得するためには通常2カ年を要する。しかし, 修了証は1~2年, 資格証は種類によるが, 通常1学期で取得可能である。高等学校を卒業していれば, 誰でも入学できる。しかし, どのプログラムにでも入れる訳ではなく, 入学手続きの際に審査が行われる。³⁹

技術/専門職学位のプログラムとして, 「看護学」(nursing), 「幼児教育」(early childhood education), 「情報管理及びデザイン」(Information Management & Design), 等がある。「情報管理及びデザイン」の中の専攻として, 「図書館情報技術」(Library Information Technology) がある。それが, 準学士号レベルのLSS養成である。学生に推奨されている学期ごとのモデルは以下の通りである。⁴⁰

1年の秋学期 (科目名と単位)

* Writing I (3)

* Introduction to Information Systems (3)

- * Introduction to Reference Services (3)
- * Oral Communications Course (3)
- * Mathematics Course (3)
- * Heritage/Humanities/Foreign Language Course (3)

1年の春学期(科目名と単位)

- * Writing II (3)
- * Library Administration (3)
- * Library Technical Services (3)
- * Library Services for Children (3)
- * Library Services for Children (3)
- * Presentations (3)
- * Science Course (3)

2年の秋学期(科目名と単位)

- * Microsoft Office Applications (3)
- * Beginning Web Design (3)
- * Introduction to Desktop Publishing (3)
- * Professional Practices (3)
- * Workplace Management (3)
- * LIT Option Course (3)

2年の春学期(科目名と単位)

- * Advanced Word Processing (3)
- * Cooperative Education or Internship (3)
- * Social Interaction Course (3)
- * LIT Option Courses (9)

授与される準学士の称号は, Associate in Applied Science Degree in Information Management & Design—Library Information Technology Option である。

ブルーグラス・コミュニティ・技術大学には, LSS の資格証プログラムもある。それは, Academic Certificate in Library Information Technology プログラムと称されている。このプログラムで履修する科目は, 「情報管理及びデザイン」(図書館情報技術専攻) プログラムに流用することも可能である。LSS の資格証プログラムはすべて Web ベースのオンラインで開講されている。資格証を取得するためには, 以下にリストする科目の中から必須科目も含めて18 単位履修する必要がある (1 科目は基本的に3 単位⁴¹)。

* Introduction to Reference Services (必須)

(以下の領域の中から少なくとも1 科目履修)

図書館業務 (Library Procedures) 領域

- * Library Administration
- * Library Technical Services
- * Web Publishing for Libraries

図書館サービス (Library Services) 領域

- * Library Services for Children
- * Library Services for Young Adults
- * Library Services for Adults
- * Library Services for Preschool Children
- * Genealogy Services in Libraries

図書館情報技術 (Library Information Technology) 領域

LIT 115レベル以上の科目

ケンタッキー文学領域 (他州の学生の場合は, 英米文学の科目を選択してよい)

- * Seminar in Kentucky Literature
- * Appalachian Literature of Kentucky
- * Literature of Central Kentucky
- * Literature of Western Kentucky

一般教育 (General Education) 領域

- * Writing I
- * Writing II
- * History of the United States through 1865
- * History of the United States since 1865
- * History of Kentucky (他州の学生の場合, 自分の州の歴史の科目を選択してよい)

3. 2. 2. 2 ノーザン・ケンタッキー大学 (Northern Kentucky University) (事例 2)

ノーザン・ケンタッキー大学 (Northern Kentucky University) は、1968年にアメリカでも大都市の部に入るシンシナティ市 (Cincinnati) の郊外に位置するハイランドハイト市 (Highland Heights) にノーザン・ケンタッキー州立大学 (Northern Kentucky State College) の名称で創立された。そして、1973年に現在の名称に変更された。ケンタッキー州の8つの州立大学 (State University) の中で最も新しい大学である。2010年現在、約15,000人の学生と約2,000人の教職員を擁するアメリカでは中規模の大学である。学位等に関しては、6の準学士号、70の学士号、20の修士号、法学博士号、教育学博士号を授与している。⁴²

2006年に情報学部 (College of Informatics) が設置された。情報学部は、以下のように9の学士号、5の修士号、5の大学院修了証 (Graduate Certificate) を授与している。⁴³

学士号 (Bachelor degree)

- * Business Informatics
- * Communication Studies
- * Computer Science
- * Computer Information Technology
- * Electronic Media and Broadcasting
- * Journalism
- * Library Informatics
- * Media Informatics
- * Public Relations

修士号 (Master's degree)

- * Business Informatics
- * Communication
- * Computer Information Technology
- * Computer Science
- * Health Informatics

大学院修了証 (Graduate Certificate)

- * Business Informatics
- * Corporate Information Security
- * Enterprise Resource Planning
- * Health Informatics
- * Security Software Engineering

上記の中の Library Informatics プログラムが LSS の養成をしている。Library Informatics プログラムは2009年からスタートした (学位は Bachelor of

Science in Library Informatics degree)。プログラムの設置理由としては、「情報図書館界はライブラリアンを必要としており、このプログラムが若い人々をその世界に惹きつけるのに役立つ」と記されている。大学院教育と異なり、高校の卒業生と直接に関連付けることによって、図書館情報専門職の多様性を高めるとも記している。また、すべての組織の業務において ICT が必須になっている現代、このプログラムは雇用者のニーズに応えるとも記している。このプログラムは、専門職ライブラリアンと LSS の養成・訓練というニーズに応え、また、遠隔教育により、州のどこに居住しても学士号を取得する機会を与えている、と強調する。ケンタッキー州では3分の1の図書館長が MLS を保持しておらず、このプログラムの必要性は特に高いとしている。さらに、このプログラムの存在によって、ケンタッキー州の図書館利用者が恩恵を被ること、を強調している。

Library Informatics プログラムでは、学生は一般教育科目に加えて、専門科目60単位を履修することにより学士号を取得するが、このカリキュラムはノーザン・ケンタッキー大学の図書館ファカルティ（専門職のライブラリアン）によって開発⁴⁴されている。Library Informatics プログラムにおける2010年の開講科目は、以下の通り⁴⁵である。

必須科目 (Required Core Courses, 27単位) (基本的に1科目は3単位)

- * INF 282 Introduction to Databases
- * LIN 300 Information in Our Society
- * LIN 400 Current Trends in Information Technology
- * BIS 300 Management of Information Systems
- * LIN 301 Introduction to Meta Information Systems
- * LIN 302 Digital Searching Interfaces
- * LIN 303 Critical Reading

* LIN 414 Advanced Information Literacy Skills

* LIN 496 Practicum

選択科目 (Library Informatics Electives. 9 単位選択)

* PHI 210 Ethics of Information Technology

* JOU 385 Law of Mass Communications

* JOU 440 Ethics and Media

* LIN 305 Government Information

* LIN 420 Library and Information Center Management

* LIN 444 Information Literacy Curricular Design

* LIN 394 Special Topics

* BIS 410 Advanced Analysis and Design

* BIS 420 Knowledge Management

* BIS 435 Database Management Systems

上級選択科目 (Upper Division Elective Requirement. 24単位選択必修)

* Information Technology/Communication 領域から 9 単位

* Psychology/Sociology 領域から 6 単位

* Organizational Studies/Research Methods 領域から 9 単位

以上の科目履修のための必須科目 (Required Prerequisites)

* STA 205 Statistics

* INF 101 Computer Literacy and Informatics

Library Informatics プログラムの卒業生の就職先は、LSS, オンライン・リサーチャー (online researcher), エンドユーザ・トレーナー (end-user trainer), 市場調査 (market research), 電子広報 (electronic public relations) ⁴⁶である。

以上, ケンタッキー州にあるブルーグラス・コミュニティ・技術大学 (コ

コミュニティ・カレッジ)とノーザン・ケンタッキー大学(4年制大学)の2大学を取り上げ、それらの具体的なプログラムを概観した。この2つの大学は、ケンタッキー州の州法にある「パラプロフェッショナル資格証」を視野に入れて、プログラムの作成を行っていると推測される。ブルーグラス・コミュニティ・技術大学では準学士号と資格証の2プログラムを概観した。ノーザン・ケンタッキー大学のLibrary Informaticsプログラムは学士号課程であり、ALAの「図書館情報学と人的資源利用政策」の中に記されている「LISアシエーツ」の養成プログラムに相当する。しかし、ノーザン・ケンタッキー大学がそのプログラムをどのように位置付けているかは不明であり、今後の検討課題である。

4. 結 び

以上、アメリカにおけるLSSの養成に関する考察を試みた。LSSの養成に関して、21世紀以前と21世紀以後という時代区分を設定し、「ALAと図書館サポートスタッフ養成」と「図書館サポートスタッフ養成機関」という2つの観点から検討した。21世紀以前の「ALAと図書館サポートスタッフ養成」の項では、1970年にALAの正式方針となった「図書館教育とマンパワー」を取り上げ、その中で推奨されているLSS(事務職員, 図書館技術助手, 図書館アシエーツ)を概観し、課題等を検討した。同「図書館サポートスタッフ養成機関」の項では、マルティーズとバークの調査を基に1984年と1999年時点におけるLSS養成機関及びそのプログラムの状況を概観した。

21世紀後の「ALAと図書館サポートスタッフ養成」の項では、「図書館教育とマンパワー」の改訂版である「図書館情報学と人的資源利用政策」, 1971年を起源とする2004年版「図書館技術助手養成プログラム規準」, 2010年から本格的

にスタートした「図書館サポートスタッフ資格証プログラム」を概観した。同「図書館サポートスタッフ養成機関」の項では、スラサーの調査を基に、2005年時点における図書館技術助手の養成機関及びプログラム、事例研究としてケンタッキー州にあるブルーグラス・コミュニティ・技術大学とノーザン・ケンタッキー大学を取り上げ、教授陣、学位や資格証、開講科目、等を概観した。

その結果、アメリカにおけるLSSの養成は長い歴史を持ち、ALAも図書館界の職能団体として、さまざまな形で関わってきていることが分かった。そして、LSSの養成も、専門職ライブラリアンの養成と同様、種々の課題を抱えていることが分かった。

わが国における公共図書館の専門職養成と関連づけて、アメリカの図書館員養成に言及する際、「図書館員＝専門職ライブラリアン」という前提で議論が展開される傾向にある。ただし、本稿で焦点を当てたLSSはアメリカにおける図書館員の大部分を占めており、上記の前提は実態を必ずしも反映していない。LSSの存在によって、アメリカの図書館運営、さらには専門職ライブラリアンの専門職制そのものが維持されているとも言えよう。専門職制におけるLSSと専門職ライブラリアンの関係については今後の検討課題であるが、わが国の図書館員養成（司書課程や司書補課程）という文脈でアメリカの養成教育に言及するならばLSSの養成に焦点を当てた方が有効な視座が得られるかもしれない。これは図書館員養成に関して、大学院レベルの教育が不要であるという意味ではなく、専門職ライブラリアンの専門職制自体がLSSの職務を前提に成立している以上、日本でもLSSの職務や待遇面に関する検討は日本型専門職ライブラリアンを志向する上で不可避な事項となろう。今後、アメリカにおけるLSSの職務や待遇に関する実態調査を実施し、LSSの実態を明らかにしていきたい。

注及び引用文献

1. 国立国会図書館編『米国の図書館事情 2007』(図書館研究シリーズ no. 40) 国立国会図書館 2008. インターネットからも入手可能. Web サイト: <http://current.ndl.go.jp/series/no40>, (参照2010-12-22).
2. 本稿では、「支援職」, 「図書館サポートスタッフ」, 'library support staff(LSS)' の用語を, 次のような ALA の定義に基づいて使用する。

"Library support staff, or library paraprofessionals, are involved in all library operations at all levels. They may manage libraries or they may contribute very specialized expertise in some specific field. They may engage in routine activities or supervise and direct other staff. Generalizations about them are difficult to make, and to find an all-encompassing job description, nearly impossible... The one distinction usually drawn between "support staff" and "librarians" is that those in the latter group typically have a Master of Library Science degree (MLS)." 参照: American Library Association, *Overview of Library Support Staff*. http://www.ala.org/ala/aboutala/offices/hrdr/librariansupportstaff/overview_of_library_support_staff.cfm, (参照2010-12-22).

ALA は, このように LSS と library paraprofessionals は同義に扱い, そして, 事務職員 (clerk) と称される職も含めている。それは, 本稿で概観するように, 1970 年の政策方針「図書館教育とマンパワー」(Library Education and Manpower) 以来, ALA の一貫した考え方である。しかし, library paraprofessionals に関する文献を綿密に調べた結果の定義だと論ずる, オバーグ (L. R. Oberg) の定義には事務職員は含まれていない。参照: L. R. Oberg, "The Emergence of the Paraprofessional in Academic Libraries: Perceptions and Realities," *College & Research Libraries*, 53: 2 (1992), p. 99-112.

3. 国立国会図書館編, op. cit., p. 85, 105.
4. 井上靖代「1.3.1 司書養成・研修・採用」国立国会図書館編『米国の図書館事情 2007』, op. cit., p. 32-36.
5. L. R. Oberg, *Library Support Staff in an Age of Change: Utilization, Role Definition, and Status*. http://www.ala.org/ala/aboutala/offices/hrdr/librariansupportstaff/library_support_staff_in_an_age_of_change.cfm, (参照2010-12-22).; C. C. Williamson, *The Williamson reports of 1921 and 1923, including Training for library work (1921) and Training for library service (1923)*. Metuchen, NJ: Scarecrow Press, 1971.

6. L. R. Oberg, *Library Support Staff in an Age of Change: Utilization, Role Definition, and Status*. op. cit.
7. American Library Association, "Library Education and Manpower," *American Libraries*. Vol. 1 (April 1970), p. 341-344. 後にこの方針文書の正式名称は, Library Education and Personal Utilization に変更された。
8. ibid.
9. ibid. しかし, ALA の「図書館技術助手」と「図書館アソシエーツ」の区分案は, その後現場の図書館界ではあまり普及せず, 以前から知られている「図書館技術者」(library technician) の名称がその後も広く使われ, 「図書館技術者」のカテゴリーの中で階層化がなされた。参照: L. R. Oberg, "The Emergence of the Paraprofessional in Academic Libraries: Perceptions and Realities," op. cit. M. L. Kao も, 博士論文: *Library Technicians' Education, the Workplace, and Job Satisfaction* (University of Connecticut, 1998) の中で, 'library technician' を 'library support staff' や 'paraprofessional' と同義と見なしている。
10. P. Sullivan, "ALA and Library Education: A Century of Changing Roles and Actors, Shifting Scenes and Plots," *Journal of Education for Library and Information Science*. 26:3(1986), p. 143-153; J. Fang, "Education for Library Support Staff in the United States and Canada." *Bowker Annual of Library & Book Trade*. 27th ed. New York: Bowker, 1982, p. 288-92.
なお, 図書館現場のLSSからの強い要求などもあって, 「図書館教育とマンパワー」が本格的に見直されるのは21世紀に入ってからである。
11. S. M. Maltese, "A Report on Library Technical Assistant Programs," *Community & Junior College Libraries*. 3:3 (1985), p. 51-68.
12. J.J. Burke, "Library Technical Assistant Programs: Library Education for Support Staff," *Community and Junior College Libraries*. 9:3 (2000), p. 23-31.
13. J. Fang, op. cit.
14. J.J. Burke, op. cit.; S. M. Maltese, op. cit.
15. S. M. Maltese, op. cit.
16. J.J. Burke, op. cit. パークの文献には, 46機関すべてが州ごとにリストされている。
17. 詳細に関しては次の文献を参照。山本貴子, 大城善盛, 漢那憲二, 中島幸子「アメリカにおける図書館職員の要件と資格」『大谷学報』90:1(2010), p. 49-69.
18. American Library Association, *LIBRARY AND INFORMATION STUDIES EDU-*

CATION AND HUMAN RESOURCE UTILIZATION A STATEMENT OF POLICY: EXECUTIVE SUMMARY. <http://www.ala.org/ala/aboutala/offices/hrdr/educprofdev/lepu.pdf>, (参照 2010-12-22).

19. A. M. Wilson and R. Hermanson, "Educating and Training Library Practitioners: A Comparative History with Trends and Recommendations," *Library Trends*, 46:3(1998), p. 467-505.
20. ALA Committee on Education, *Criteria for Programs to Prepare Library Technical Assistants*. <http://www.ala.org/ala/educationcareers/education/3rdcongressonpro/criteriaprograms.cfm>, (参照 2010-12-22).; ALA Committee on Education, *Report to Council, 2004 Annual Conference, Orlando, Florida*. <http://www.ala.org/ala/aboutala/offices/oif/ifgroups/ifcommittee/ifcinaction/ifcreports/ifcreportac04.pdf>, (参照 2010-12-22).
21. American Library Association, *ALA Committee on Education Report to Council 2004 Annual Conference Orlando, Florida, op. cit.*
22. ALA Library Support Staff Interests Round Table, *Issues Survey*. http://ala.org/ala/mgrps/rts/lssirt/lssirtstratplan/issuessurvey/ALA_print_layout_1_399018_399018.cfm, (参照 2010-12-12); ALA Library Support Staff Interests Round Table, *Final Results*. <http://ala.org/ala/mgrps/rts/lssirt/lssirtstratplan/issuessurvey/Results.pdf>, (参照 2010-12-22). 図書館技術助手を養成するコミュニティ・カレッジの教員を主たるメンバーとして1967年に設立された Council On Library/Media Technicians (以下, COLT) も, 1997年に LSS に関する調査を行い, LSS が全米的な資格証に関心を持っていることを突き止めた。LSSCP 実現に際しては, COLT の影響も無視することはできない。COLT は, 1997年に以下のような声明文を公表した (抜粋) 24)

COLT は1980年代中期に, LSS の全米的資格証プログラムを検討課題とした。その時は, MLS を所持しないミニチュア・ライブラリアンを生み出し, プロのライブラリアンだと利用者を欺くことになり, 質の低いサービスにつながる, とライブラリアンと図書館経営管理者から強い抵抗があり, 諦めた。

1990年代も中期になった今, COLT は再度, 全米的資格証プログラムの重要性を認識し, その可能性の調査を開始した。サーベイ調査をしたところ, 資格証プログラムに対する強い支持があることが分かった。

大学院図書館学部の閉鎖は, ライブラリアンの減少をもたらした。以前ライブラリ

アンによって遂行されていた業務の再編によって、LSSは強い影響を受けている。例えば、以前ライブラリアンによって遂行されていたコピーカATALOGINGは、現在、LSSによってなされている。

COLTは、大規模図書館システムは各々独自の基準を保持していることを認識している。しかし、地方、州、国レベルの基準が必要であり、そしてそれらの間に一貫性が保たれることの必要性を認識する。全米的資格証プログラムには異論が多く、専門職と図書館のイメージを進展させようと努力しているライブラリアンたちは守りの姿勢に入ると推測されるが、それにも関わらず、COLTは彼ら/彼女らの支持を期待する。

COLTは、LSSのための、労働組合でない最古の組織である。そして、COLTによって実施される全米的な試験開発に邁進している。他の図書館組織やサポートスタッフ組織との共同作業はあり得ることである。この試験のメリットは、能力を示す証明書を全米的に持ち歩くことができ、そして、多くの適切な職を選ぶことができることである。高いスキルを所持する図書館職員の需要は増してきている。我々は、LSSのための全米的な資格証プログラムのコンセプトを進展させることを誓約する。(参照: Council on Library/Media Technicians, *A Position Paper on Skill Certification for Library/Media Support Staff*. 1997. <http://colt.ucr.edu/coltcert.html>, (参照2010-12-22).

23. Jenifer Grady & Barbara Marson, "The Library Support Staff Certification Program: Past, Present, and Future," *WORLD LIBRARY AND INFORMATION CONGRESS: 74TH IFLA GENERAL CONFERENCE AND COUNCIL*. August 2008, Québec, Canada. http://archive.ifla.org/IV/ifla74/papers/136-Grady_Marson-en.pdf, (参照2010-12-22).; American Library Association, *Library Support Staff Certification Program (LSSCP) Application Narrative*. <http://ala-apa.org/lssc/about-lssc/background/files/2010/03/narrative.pdf>, (参照2010-12-22). ALA-APA (ALA-Allied Professional Association) とは、ALA が図書館サービスと図書館職を推進するための教育組織であるため、図書館職員の経済的な側面の改善活動や資格の授与等ができず、そのことを可能とするために ALA によって2001年に設立された仲間組織 (実質的な下部組織) である。参照: ALA-APA, *About ALA-APA*. <http://ala-apa.org/about-ala-apa/>, (参照2010-12-22).

24. *ibid.*

25. *ibid.*

26. Western Council of State Libraries, *Library Practitioner Certification Program*. <http://www.westernco.org/node/6>, (参照2010-12-22).
27. Jenifer Grady and Barbara Marson, op. cit.; American Library Association, *Library Support Staff Certification Program (LSSCP) Application Narrative*, op. cit. しかし, LSSを養成しているコミュニティ・カレッジの教員を主会員に構成されているACRL/CJCLSは, 個人への資格証授与プログラムより, MLSプログラムのような機関プログラムの認定により高い関心を持っていた。参照: ALA-APA, *Certification of Library Technical Assistants*. <http://ala-apa.org/about-ala-apa/governance/historical-committees/certification-task-force/certification-of-library-technical-assistants/>, (参照2010-12-22).
28. 州プログラムの具体例として, マサチューセッツ州の例が次のWebサイトで見ることができる。参照: Massachusetts Board of Library Commissioners, *Code of Massachusetts Regulations: 605 CMR 3.00: Certification of Librarians*. <http://mbcl.state.ma.us/mbcl/laws/code/605cmr3.php>, (参照2010-12-22).
29. American Library Association, *Library Support Staff Certification Program (LSSCP) Application Narrative*. op. cit.
30. R. Applegate, *Academic Library Support Staff Competencies: What Should Support Staff Know and be Able to Do?* <https://scholarworks.iupui.edu/handle/1805/1878>, (参照2010-12-22).
31. ALA-APA, *Library Support Staff Certification Approved Courses*. <http://ala-apa.org/lssc/approved-courses/>, (参照2010-12-22).
32. Linda Slusar, *Survey of Library Technical Assistant Training programs in the United States*. http://www.ala.org/ala/mgrps/divs/acrl/about/sections/cjcls/collaborate/Survey_highlights_2005.pdf, (参照2010-12-22).
33. Indian River Community Collegeの12年という数字は, スラサーの文献にはなく, J. A. Nourse and P. C Profeta, "Indian River Community College's LTA Program: A Model," *Journal of Education for Library and Information Science*. 36: 1 (1995), p. 16-21, から得たものである。
34. COLTのWebサイトには, 2009年現在のリスト(4年制大学も含めた53大学)が載っている。そのリストにあり, スラサーのリストから抜けている大学は, 次の通りである。**California**: ① Sacramento City College, ② San Bernardino Valley College, **Colorado**: ① Colorado Community College Online, **Connecticut**: ① Capital Com-

- munity College, ② Southern Connecticut State University (学士号), **Georgia** : ① Georgia Perimeter College, **Idaho** : ① University of Idaho (学士号), **Illinois** : ① College of Lake County, ② Illinois Central College, ③ Joliet Junior College, ④ Waubensee Community College, ⑤ Wilbur Wright College, **Indiana** : ① Indiana College Network, **Kansas** : ① Emporia State University, **Kentucky** : ① Bluegrass Community & Technical College, ② Northern Kentucky University (学士号), **New Mexico** : ① Northern New Mexico Community College, **North Carolina** : ① University of North Carolina at Chapel Hill (学士号), **Ohio** : ① Belmont Technical College, **Oregon** : ① Portland Community College, **Pennsylvania** : ① Northampton Community College, **South Dakota** : ① Black Hills State University, **Texas** : ① Palo Alto College, **Utah** : ① Salt Lake Community College, **Washington** : ① Highline Community College, **West Virginia** : ① Marshall Community and Technical College 参照 : Council on Library/Media Technicians, *U.S. library Technician Programs; Includes Certificate, Associate, and Bachelor Degree Programs*. <http://colt.ucr.edu/ltprograms.html>, (参照2010-12-22).
35. American Library Association, *Accredited Library and Information Studies Master's Programs from 1925 through Present*. <http://www.ala.org/ala/educationcareers/education/accreditedprograms/directory/1925present/index.cfm>, (参照2010-12-22).
36. COLT の Web サイトには, 2009年現在でも LTA の養成機関は26州 (53大学) しかリストされておらず, 2009年現在でも状況はあまり変わっていないと推測される。参照 : Council on Library/Media Technicians, op. cit.
37. Kentucky department of Libraries and Archives, *Certification Program for Kentucky Public Libraries*. <http://www.kdla.ky.gov/libsupport/certification.htm>, (参照2010-12-22).; Kentucky department of Libraries and Archives, *The Certification Manual*. <http://www.kdla.ky.gov/libsupport/certification/manual.pdf>, (参照2010-12-22).
38. 4種の資格証の履修要件を「単位」で記しているが, 州法では「時間」で記されている。理解しやすくするために, 3時間を1単位に換算して記した。
39. Bluegrass Community & Technical College, *Bluegrass Community & Technical College*, <http://www.bluegrass.kctcs.edu/>, (参照2010-12-22).
40. Bluegrass Community & Technical College, *Information Management & Design — Library Information Technology Option*. http://bluegrass.kctcs.edu/Academics/Programs_of_Study/~media/Bluegrass/Academics/Program_Checklists/2010-2011

/cl_imd_library.ashx, (参照2010-12-22).

41. Bluegrass Community & Technical College, *Academic Certificate in Library Information Technology*. http://legacy.bluegrass.kctcs.edu/csis/lit/academic_certificate_in_library_information_technology/, (参照2010-12-22).
42. Northern Kentucky University, *About Northern Kentucky University*. <http://www.nku.edu/about/index.php>, (参照2010-12-22).
43. *ibid.*
44. Northern Kentucky University, *NKU launches B.S. in Library Informatics program*. http://nku.edu/display_news.php?ID=3508, (参照2010-12-22).
45. Northern Kentucky University, *Undergraduate Catalog, 2010-2011*. <http://access.nku.edu/catalog/2011Catalog/catalog2011.pdf>, (参照2010-12-22).
46. Northern Kentucky University, *NKU launches B.S. in Library Informatics program*. *op. cit.*